

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科		
科目名称	園芸学概論					授業形態	講義		
科目コード	710127	単位数	2単位	配当学年	1年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	
担当教員名	長江 嗣朗、前田 隆昭、姜 暎求、菅野 善明、杉田 亘、陳 蘭庄、廣瀬 大介、山口 健一、山口 雅篤								
授業概要	本授業の目的は、園芸学分野に関する基本的な知識を習得することである。【知識・理解の育成】 講義は園芸学分野（園芸生産環境専攻、植物バイオ・育種専攻）の教員がオムニバスで実施する。								
関連する科目	1年時前期必修科目『環境園芸概論』に引き続き行う。								
授業の進め方 と方法	授業は板書とパワーポイントを用いて行う。随時、プリントなども配布する。								
授業計画 【第1回】	1. ガイダンス・果樹園芸学の概要について（前田隆昭） 果樹園芸学とはどのような学問かについて学習する。								
授業計画 【第2回】	2. 花卉園芸学の概要と現状（長江嗣朗） 国内における花卉の生産状況および流通状況について、過去から現在までの変遷を学習する。								
授業計画 【第3回】	3. 根の役割と形態調査方法（廣瀬大介） 作物根系の特性と形態調査方法について学習する。								
授業計画 【第4回】	4. 変化を求められる農業（廣瀬大介） スマート農業について学習する。								
授業計画 【第5回】	5. 園芸経済（1）（姜 暎求） 野菜編-野菜の生産基盤・流通・消費の現状について学習する。								
授業計画 【第6回】	6. 園芸経済（2）（姜 暎求） 果樹編-果樹の生産基盤・流通・消費の現状について学習する。								
授業計画 【第7回】	7. 園芸生産の環境上の問題点（山口健一） 農薬や化学肥料、エネルギー消費の現状について学習する。								
授業計画 【第8回】	8. 植物栽培環境の生物的改善（山口健一） 有用微生物や植物等生物機能の農業利用について学習する。								
授業計画 【第9回】	9. 蔬菜園芸学総論の概要について（陳 蘭庄） 蔬菜園芸学とは学問としての学び方について。								
授業計画 【第10回】	10. 蔬菜園芸学各論の概要について（陳 蘭庄） 蔬菜園芸学とは技術としての学び方について。								
授業計画 【第11回】	11. 園芸作物におけるバイオテクノロジー技術の利用について（杉田 亘） 園芸作物におけるバイオテクノロジー技術の概要について学習する。								

授業計画 【第12回】	12. 園芸分野における植物病理学（菅野善明） 園芸学分野における植物病理学の役割について解説する。
授業計画 【第13回】	13. 園芸植物に病気を引き起こす病原体（菅野善明） 園芸植物に病気を引き起こす病原体の種類と生物学的分類について学習する。
授業計画 【第14回】	14. 植物の色と色素の関係（山口雅篤） 花色の育種におけるカーネーションの色素成分育種について学習する。
授業計画 【第15回】	15. 植物に含まれる機能性成分について（山口雅篤） 植物に含まれる機能性成分の育種の中で特に抗酸化成分について学習する。 順番および内容は変更されることがあります。
授業の到達目標	1. 園芸学の基礎を理解しながら、栽培や生産および育種関係の基礎知識を習得する。【専門分野の知識・理解の育成】 2. 園芸学分野で学ぶ上で、必要となる基礎的な専門用語も併せて習得する。【専門分野の知識・理解の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外の学修 【予習】	本授業の1回目に15回分の授業のテーマを紹介するので、予め基礎知識を学習しておく。（1時間程度）
授業時間外の学修 【復習】	授業後には授業内容に関連した論文や資料等で学びを深めること。また、各回ごとに課題を作成する。（1時間程度）
課題に対する フィードバック	最終試験は、試験終了後に解説を行う。
評価方法・基準	各回ごとに課された課題から総合的に評価する。
テキスト	必要に応じ、随時配布する。
参考書	なし
備考	